

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	環境建築設計法小委員会	主 査 名：羽山広文 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：羽山広文
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・設計事例と評価事例を収集整理し、特徴を分析するとともに、設計に役立つ事例集としてまとめる。 ・設計法の指針や設計に利用できるデータを提案する。 ・新時代を支える建築設備技術者の教育法を検討するとともに、学生に環境建築創造の魅力を伝える。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：羽山広文(北海道大学) 幹事：郡公子(宇都宮大学)、長井達夫(東京理科大学) 委員：赤司泰義(九州大学)、石野久彌(首都大学東京)、市川尚紀(近畿大学)、宇田川光弘(工学院大学)、川瀬貴晴(千葉大学)、木幡悠士(NTT ファシリティーズ)、下正純(竹中工務店)、中山哲士(岡山理科大学)、丹羽勝巳(日建設計)、藤村淳一(大成建設)、丸山純(松田平田建築設計)、山本佳嗣(㈱日本設計)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2012 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s10/index.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small>	1. 第 8 回建築設備シンポジウムの企画・実施に協力した。 参加者数 280 名(うち Ustream 参加 7 名)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 環境建築の設計事例と評価事例の収集と分析を実施した。 2. 環境建築の設計法やツールの収集と分析を実施した。 3. 建築設備の教育事例の収集と分析を実施した。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 活動を通じて得られた成果をシンポジウム等で十分公開できなかった。 2. 旅費が少なく、遠方の委員の負担が大きい。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>環境建築設計法小委員会は以下の3点を目標に活動を進めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境建築の設計事例と評価事例の収集と分析 2. 環境建築の設計法やツールの収集と分析 3. 建築設備の教育事例の収集と分析 <p>2009～2012年度の活動内容を以下に示す。</p> <p>■2009年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題検討会：7件 ・第5回建築設備シンポジウムの企画・実施支援（参加者数：199名） <p>■2010年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題検討会：9件 ・見学会：1件（神田外語大学7号館） ・第6回建築設備シンポジウムの企画・実施支援（参加者数：179名） ・オーガナイズドセッション（環境建築のシミュレーション）5件 <p>■2011年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題検討会：8件 ・見学会：4件（立川市新庁舎、新千歳空港ターミナルビル、飯野ビル、東京都立多摩総合医療センター・小児総合医療センター） ・第7回建築設備シンポジウムの企画・実施支援（参加者数：242名） ・シンポジウム「見る・使う・学ぶ 環境建築」の企画・実施支援（参加者数：158名） ・オーガナイズドセッション（環境建築システムの性能評価）5件 <p>■2012年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題検討会：4件 ・見学会：4件（東工大 環境エネルギーイノベーション棟、ホキ美術館、明治大学和泉図書館、第一三共新研修所） ・第8回建築設備シンポジウムの企画・実施支援（参加者数280名、うちUstream参加7名） ・オーガナイズドセッション（環境建築の最新性能）5件 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。